

水島港唐船線改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査
なかついせき
中津遺跡 現地説明会資料

令和7年10月15日（水曜日）、16日（木曜日）
中津遺跡発掘調査現場（倉敷市玉島黒崎）

主催：岡山県古代吉備文化財センター

岡山県古代吉備文化財センターでは、水島港唐船線改築工事に伴い、中津遺跡の発掘調査を令和6年から行っています。今年度の調査は6月から開始しました。

この遺跡は、竜王山塊から流れる屋守川が形成した扇状地の先端にあります。遺跡の東側は中世まで海に接していました。

調査地の南に位置する中津貝塚は、縄文時代後期初頭（約4,000年前）の基準となる土器が発見されたことで著名な遺跡です。縄文時代晩期の土坑墓からは人骨も見つかっています。

昨年度の調査では、縄文時代晩期の貝層が見つかりました。貝層はハイガイ・アカニシ・オキシジミなどの貝類で形成されています。貝層周辺からは縄文時代後期～晩期の土器や石鏃・石斧・石匙などの石器、古代～中世の土器などが出土しています。貝層のほかには中世の掘立柱建物や溝も見つかっています。製塩土器（塩づくりのための土器）や土錘・石錘（漁労用のおもり）など、海辺の暮らしがうかがえるものも出土しました。



おかやま全県統合型 GIS より一部加筆

今年度の調査では縄文時代早期（約9,000年前）に作られた押型文土器のほか、縄文時代後期～晩期にかけての土器や、石鏃・磨製石斧などの石器が出土しました。中には台石（調理や作業をする台として使用した石）や磨石（食物などをすりつぶすために利用した石）など、調理するための道具も含まれています。

また、縄文時代晩期の土坑墓も2基見つかりました。2基とも人骨が残っており、縄文時代を代表する埋葬方法である屈葬（手足を折り曲げての埋葬）であることがわかりました。詳しい年代については現在検討中ですが、周辺の調査事例から晩期（約3000年前）の可能性がります。

古代～中世にかけての遺構では掘立柱建物が見つかりました。その周辺からは鍋や椀などの土器のほか、製塩土器や蛸壺といった、海辺の生業に関連した遺物も出土しており、当時の生活の様子や、この頃に周辺の開発が進んだ様子がわかります。

本資料の内容は、調査中につき変更の可能性があります。
引用・改変・再配布はご遠慮ください。

【作成】岡山県古代吉備文化財センター
〒701-0136 岡山県岡山市北区西花尻 1325-3



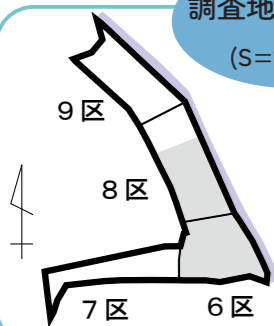
調査地遠景
（東から）



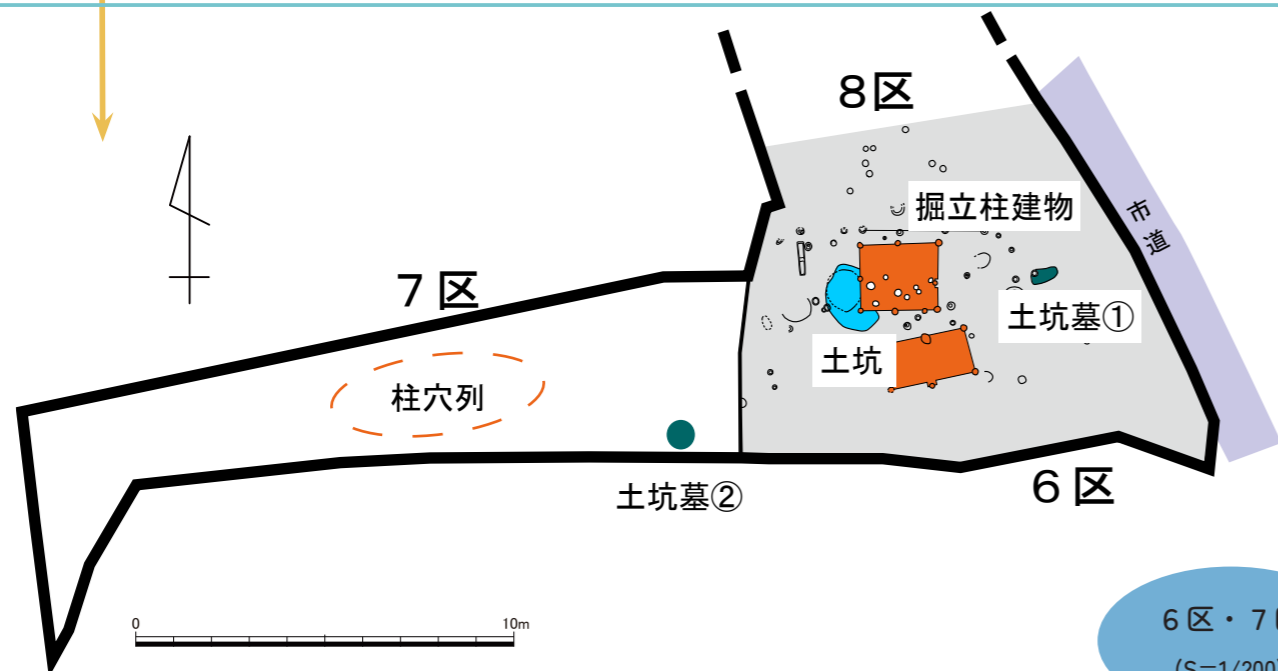


中津遺跡と
中津貝塚の調査地点
(S=1/1,500)

調査地点全体図
(S=1/2000)



遺構は調査地点の南側にあたる6・7区を中心に見つかりました。
資料では、6・7区を拡大して御紹介します。

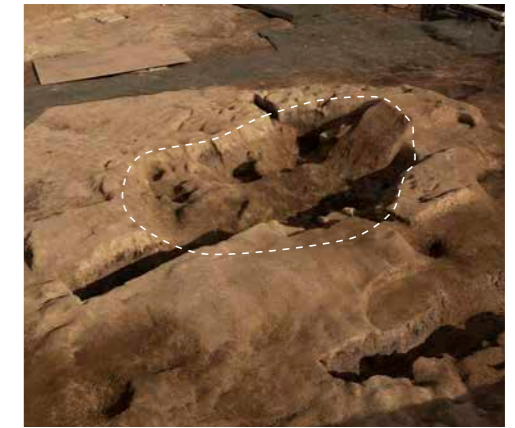


6区・7区
(S=1/200)



掘立柱建物

6区で2棟見つかりました。中世の鍋や椀などの日常的な土器が見つかりました。



土坑

長さ約3m、深さ約80cmの土坑。押型文土器と呼ばれる縄文時代早期(約9,000年前)の土器が出土。



土坑墓①

土坑墓①・②

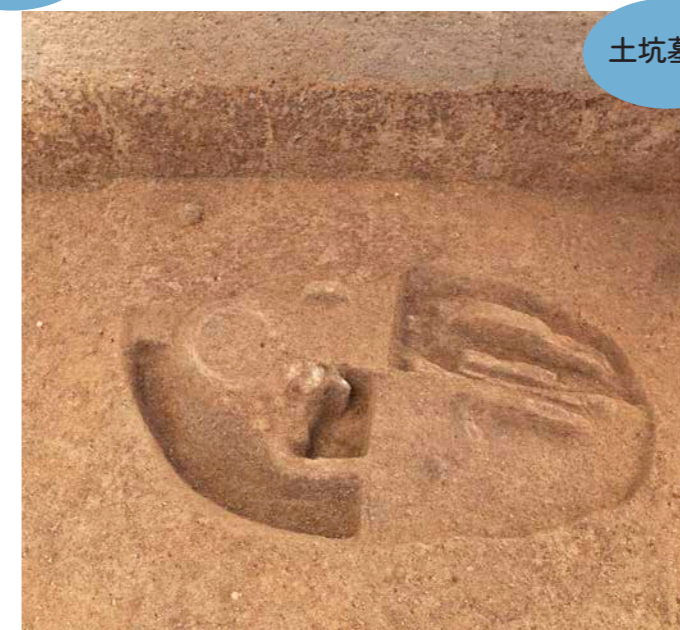
縄文時代の土坑墓(晩期(約3000年前)か)。土坑墓①は6区の東よりで、土坑墓②は土坑墓より約10m西側の地点で見つかりました。

土坑墓①・②ともに上面は後世の開発により削られていましたが、ほぼ全身の骨格がわかる状態で見つっています。

土坑墓①・②ともに頭の方は東を向いており、過去の調査で見つっている人骨の頭の方と一致しています。

土坑墓①の人骨の検出状況から左半身を下にした横向きの姿勢で、手足を折り曲げて埋葬されていることが分かりました。土坑墓②は現在調査中ですが、大腿骨や上腕骨と思われる骨が検出されています。

土坑墓からは、土器やサヌカイトの小片などが見つかりました。



土坑墓②